

がないと、外国人に慣れていないから、なんか閉ざしちゃう感じがありますよね。

—そういう中で浜松の人にメッセージはありますか？

「マリエラ」もちろん、浜松も日本も好きですね。静かだけじゃなくて、行儀がいいですね。リラックスして人と付き合うことができればもっと素晴らしい国になると思います。誰とでも気軽に会話する、とか、人間関係がもうちょっと自由になれば。

日本にはルールがたくさんあって厳しいけど、皆、ルールをちゃんと守る。その日本の文化はとていいのですが、もうちょっと感情を自由に表せばもっと良くなると思う。



小学校の運動会にて、ルー出身の子供たちがアナコンダのダンスを披露したことも

### 日本で生まれ育って

—フィオレラさんは日本の浜松生まれで、ペルーには少し暮らしたこともあるけれど、基本はずっと浜松ですか？

「フィオレラ」そうです。

—自分は何人だと思ってる？

「フィオレラ」やっぱり、ペルー人かな。ペルー人で日本語を話す人たちと仲良く出来る人、かな。ペルー人としてのアイデンティティがあるのたと思います。

「マリエラ」そう思っているって初めて聞いた。やっぱり両方の言葉もできるし、文化もわかるし、考え方がわかるのはいいですね。

—それですごく得したなと思うときはありますか？

「フィオレラ」うーん、小学生のとき、ブラジルから来る子がたくさんいて、彼らは日本語が何もしゃべれないので通訳してあげたことかな。ペルーから来た男の子で、日本語が全然分からなくて、日本の文化も何も知らなかったの、最初スペイン語で説明してあげたこともあります。学校のルールや書き取りなどの宿題も毎日出るからちゃんとやらないといけないよって。

—中学のとき、部活は何をやっていましたか？

はいけない、と苦しくなっちゃった。

その他にも、思春期に、よく日本人は両親にひどい口をきくことがあるって聞くんですが、ペルーではそうしたら、家から追い出されるくらい親が怒るので、そこは違うなと思います。

—思春期に親に反発したりしなかったんですか？

「フィオレラ」あるんですけど、日本だとそれに對して親は何も注意しないことが多いじゃないですか？例えば、子供が反発しても親は、「はいはい」くらいで、あまり怒らないと思うんですよ。でも、そこで放っておくとだんだんとエスカレートしちゃうと思います。ペルーではそこでちゃんと受け止めて、ちゃんと怒って、親にひどい口をきくことは本当に悪いことだよって教えていると思います。

ペルーでは、家でもっと教育をしていると感じます。日本は家でやらないから学校にルールがたくさんあるのかな、と思います。

—なるほど。日本は家ではなく学校でしつけとか考え方や社会のルールを教えると感じてるんですね。



左からフィオレラさん、夫のヴィクトルさん、マリエラさん、上の娘のロレナさん

「フィオレラ」美術部。絵を描くのが好きだったから。でも、外国人は多分、大体部活をやっていないと思う。帰宅部が多いと思います。

—お姉さんは？

「フィオレラ」姉はバレーボールがすごい好きだったので、バレーボール部でした。「マリエラ」スペイン語を勉強するから、時間がなかったんです。だから中学校ではスペイン語のためにバレー部を辞めました。それもかわいそうだったけど…。

—日本の部活って土曜日も日曜日も練習や試合があったり、大変じゃないですか？

「マリエラ」そうですね。子供はみんな部活が好きだけれど、すごく厳しいから辞めることもあって、精神的に落ち込んだ



### 浜松について

—マリエラさんにとって浜松はどんなまちですか？2回目に来てからずっと住んでいますよね？

「マリエラ」ずいぶん変わりましたね。私が最初に来たとき、例えば夫婦で買い物をするとき、夫は前を歩き、妻は後ろで荷物を持つていてというのが良く見ました。それを見て、私はいつも、何で一緒に出かけたのに並んで歩かないのと思っていました。ラテンでは違います。もし、女性が前に出ていなければ女性は怒りますから（笑）。もっとも最近一緒に歩いていますね。浜松は住みやすいですね。だけど娘たちのような若者にとっては行きたい場所はありません。若者はまだ車に乗れないから浜松駅周辺しか行けない。他に気軽に行けるところがないみたいだから、それだとつまらないですよ。

—どういう場所があったらいいと思いますか？

「マリエラ」例えば、ペルーでは道端でバンドによるコンサートがあるんですね。駅の近くだけじゃなくていろいろな場所で行っています。そして皆、集まって楽しい時間を過ごさ。アクトでいろいろな音楽のコンサートなどが行われていますが、格式が高くて、若者は行かないと言いますね。だから若者と子供のためにロックとか気軽に楽しめる音楽などがあるといいですね。若者は踊るのも好きです。ペルーでは毎週末、路上コンサートがあります。駅だけじゃなくて公園とかでもあ

ります。それはあまりよくないと思いますし、かわいそうです。

「フィオレラ」なんか部活って、そのスポーツは好きなんだけど、先生とか先輩の指導が厳し過ぎて辞めちゃって、どうしていいか分からなくなる人がいると聞いたことがあります。

「マリエラ」ペルーでは、子供のときから意見をはっきり言うことが求められますね。先生に対してもいやなものはいや、とか厳しすぎるからもっとゆっくりのペースでやりたいとか、意見を言います。だから、大人になったときもストレスが少ないです。でも日本だとほとんど言いませんね。だからストレスがたまります。

—フィオレラさんは日本とペルーの間関係の違いについてどう思いますか？

—なるほど。それはとても貴重な意見ですね。やamaiかミュージックフェスティバルといって、浜松駅前とかザザシティなど、街の中で音楽をやりたい人がバンドをやるフェスティバルがありますが、そういうイベントをもっと知ってもらって、外国人の方も気軽に参加できるようにしないとイケないですね。では、これから何かHICEにもっとこうしてほしいと思いますか？

「マリエラ」日本人の意見ですが、HICEは初めて来る人には入りにくい、いつも同じ人でおしゃべりしているみたいと聞いたことがあります。もっとオープンな雰囲気を出せれば、たくさんの方が来たいと思うと言っていました。

—若者が気軽に参加できる仕掛けを考えてみますね。本日はありがとうございました。

(※) 1996年12月にペルーの首都リマで起きたテロリストによる駐ペルー日本大使公邸襲撃及び占拠事件。翌年4月にペルー警察が突入し人質開放されるまでに4ヶ月以上かかった。